

自治的な活動の当事者に

- 皆さんは、‘自治的な活動’という言葉を知っていますか？
- ‘自治的な活動’とは、「よりよきものを求めて、自分たちの思いや願いを自ら実現していく活動」のことを言います。その中には、自分たちの問題を自分たちで解決していくことも含まれます。
- この生徒総会は、「よりよき学校を求めて、自分たちの思いや願いを自ら実現していくための話合いの場」であり、まさしく‘自治的な活動’の一つと言えます。
- さて、私は東栄中学校の出身です。当時、生徒会事務局の一人でしたが、40年経った今でも、鮮明に覚えている生徒会活動があります。
- 当時、東栄中の教室には掛け時計が一つもありませんでした。いわゆる‘ツッパリ’と呼ばれていた生徒が大勢いて、掛け時計を設置しても壊されたり、盗難にあったりするからです。
- そんな中、生徒会事務局では、「安心して過ごせる学校にしたい。」「みんな協力して設置したものなら、壊されたり盗難にあったりしないのではないか。」など、対話を通して知恵を出し合い、「チリも積もれば山となる」というネーミングの生徒会活動を始めました。
- これは、家庭や地域の古新聞や雑誌等を回収するという活動です。回収したものを業者に売って、現金に換えることで、掛け時計を購入し、各教室に設置することを目指しました。
- 軌道に乗るまで大変な苦勞がありました。何度も各教室をまわって、協力の呼びかけを繰り返しました。いつの間にか、いわゆるツッパリも、古新聞を両手に持って登校するようになりました。
- 生徒会事務局のメンバーが火種となり、多くの生徒が炭となった結果、たくさんの古新聞等を回収することができ、掛け時計を各教室に設置することができました。この時の‘自治的な活動’によって生まれた一体感や達成感は本当に素敵なものでした。苦勞はしましたが、この経験は私にとって未来につながる大きな力となりました。
- なぜ、このような話をしたか。火種でも炭でもどちらでも構いません。私は皆さんに‘自治的な活動’の当事者になってほしいと考えている

からです。

- そこで、最後に、生徒総会議案審議学活、そして今日の生徒総会について、自分に問いかけてみてほしいと思います。あなたは、『**和して同ぜず**』でしたか？それとも、その逆の『**同じて和せず**』でしたか？
- 『**和して同ぜず**』とは、仲間との団結やまとまりを第一に考えますが、無闇やたらに賛成はせず、よきものを求めて言わなければならないことは意見としてはっきりと言うことをいいます。そして、そうして決まったことは、しっかりと行動に移します。
- 『**同じて和せず**』とは、表面的には賛成しているように見えるけれども、自分というものがなく同調しているだけなので、実は何も考えていなかったり、実際は賛成なんてしていなかったりしていることをいいます。心の伴わない賛成があれば、どんな活動も上手くはいきません。
- さあ、あなたはどちらでしたか？
- これから皆さんがどのような‘自治的な活動’を展開していくのか、とても楽しみにしています。

(060510 生徒総会 講評より)